

経営比較分析表（令和3年度決算）

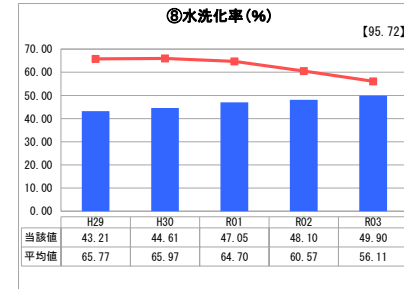
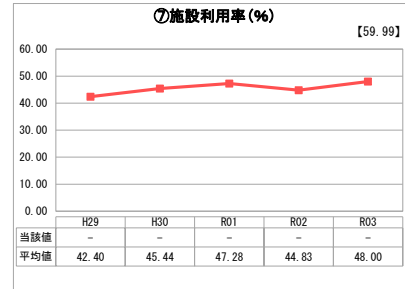
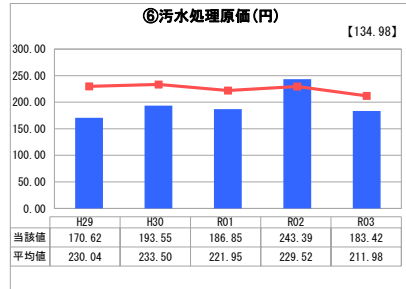
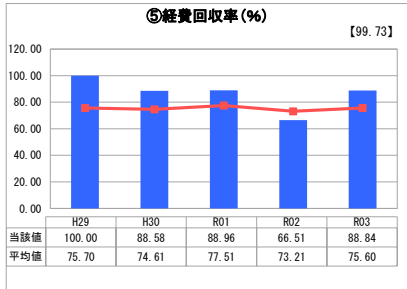
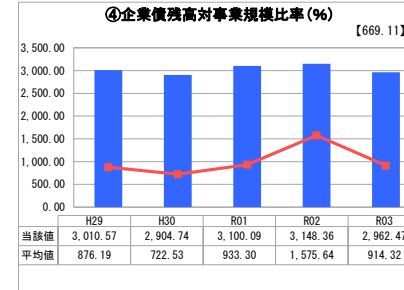
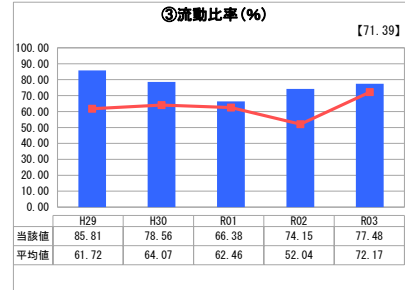
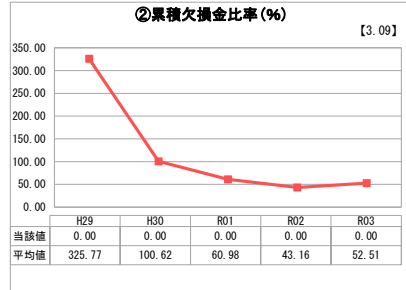
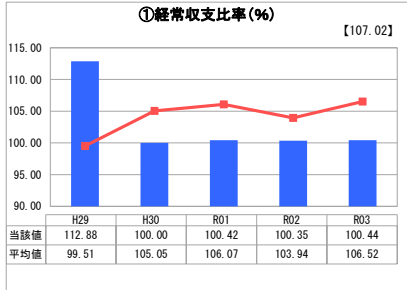
埼玉県 上里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	46.48	12.66	100.00	2,167

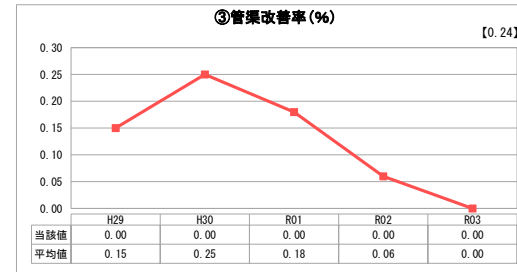
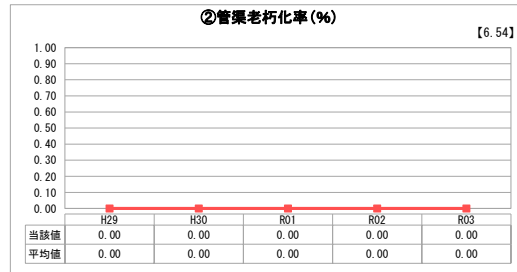
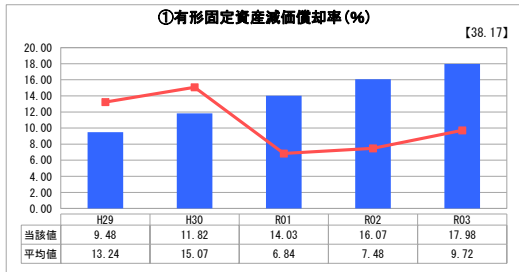
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
30,702	29.18	1,052.16
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,878	1.44	2,693.06

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
平均値を下回っているが、100%を超えている為、経営は概ね健全であると考えられる。

②累積欠損金比率
累積欠損金は発生しておらず、健全な状況と考える。

③流動比率
短期的な支払能力を示す値で、平均値を超える水準で推移しているが100%を下回っており、支払能力が十分あるとは考えない。継続して経営の改善を行っていく必要があると考える。

④企業債残高対事業規模比率
企業債残高の規模を表す指標で、平均値と比べ高い水準であるが、供用開始から間もなく、接続率が低く使用料収入が少ないことが要因である。今後も整備区域の拡張を計画的に行い、経営の健全性確保に取り組んでいく。

⑤経費回収率
使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを示す指標であり、前年と比べ使用料の増加や委託料等の費用の減少等が要因となり指標は増加、概ね例年通りとなっている。

⑥汚水処理原価
汚水処理に係るコストを示す指標であり、委託費等の費用の減少で指標は前年比減少、概ね例年通りの水準となっている。今後も費用の効率化を含め、経営の健全化を図っていく。

⑧水洗化率
現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を示す指標であり、前年に引き続き接続率の増加により指標も増加傾向である。水洗化率の向上は収益の向上に直接結びつくため、啓発活動等を通じて公共下水道への加入を促し、さらなる接続率の向上を図る。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す指標であり、資産の老朽化度合いを示す。平均値以下となっているが、現状更新工事を行っていないため今後も上昇傾向となる見込みである。

②管渠老朽化率
法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を示す指標で、管渠の老朽化度合を示すが、管渠工事は17年度からの実施であり耐用年数を超える管渠はなく、0%となっている。

③管渠改善率
当該年度に更新した管渠延長の割合を示す指標であるが、更新が必要な管渠が現状ないため更新は行っておらず、0%となっている。

全体総括

経営の健全性・効率性については、経常収支比率が100%以上で推移しており、概ね健全であると考えられる。

しかしながら、短期的な支払能力の不足・経費を使用料で賄えていない等の課題があり、適正な使用料収入の確保といった経営改善に努め、引き続き健全な財政運営を行っていくための取り組みが必要であると考える。

また今後、下水道計画の早期完成を目指し計画的な整備を行っていくとともに、供用開始後の経年に伴う管渠等の老朽化への対策についても、現行の整備事業と並行して、将来の更新需要に備え計画的に事業を行っていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。